

調査速報

国内新車販売統計（2017年1月）

17年国内新車販売の出足は失速。足元の生産は堅調だが、輸出減速リスクもあり先行きは楽観できず。

主任研究員

深尾 三四郎

045-225-2375

fukao@yokohama-ri.co.jp

要約

- 国内新車販売の17年の出足は失速。車検更新車両増加に伴う買替え需要の盛り上がりは早期一服か。
- 健全な在庫水準が続き、生産は堅調に推移しているが、輸出減速リスクもあり楽観は禁物。
- 16年中古乗用車輸出は2年連続の減少。12月に急増したスリランカ向けが「救世主」となるかに注目。

1. 17年1月国内新車販売台数は季節調整済年率換算値で前月比8.6%減の521万台と失速

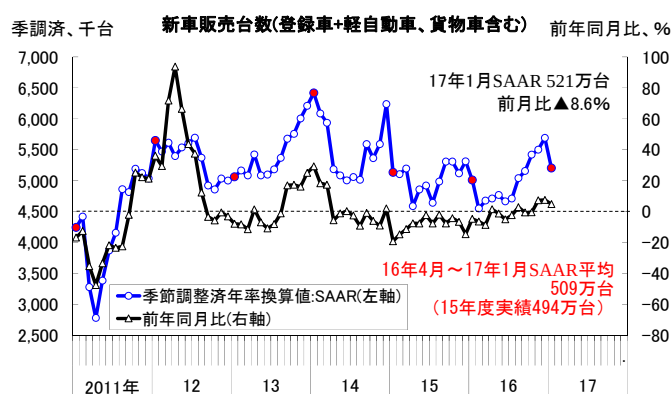
2月1日発表の2017年1月の国内新車販売台数（登録車+軽自動車、貨物車含む）は前年同月比4.9%増と3か月連続の前年超えとなったが、季節調整済年率換算値（X-12-ARIMAにて当社試算、以下SAAR）でみた1月の販売台数は前月比8.6%減の521万台と失速した。6か月連続で年率500万台超えとなり水準は高いままであるが、車検更新車両の増加に伴う買い替え需要の盛り上がりは早期に一服した可能性があり、1月の販売減速が単なる「正月ぼけ」で済むものなのか、はたまた減少基調の開始なのか、年度末に向けて収益性を犠牲にした積極販売が強化されるリスクと併せて、今後の動向には要注意である（図表1）。昨年12月まで車検更新車両台数は増加の一途を辿ったが、1月以降にトレンド転換する可能性がある（図表2）。なお、過去のSAAR実績から試算した継続検査件数（車検）の理論値は本年1月がピークとなり、2月以降は減少基調に転じる（図表3）。従って、1月のような新車販売の減速は予見されることではあった。

内訳をみると、1月の乗用車（登録車+軽）販売台数のSAARは前月比8.7%減の436万台となり（図表4）、このうち登録乗用車は同7.9%減の296万台（図表5）、軽乗用車の販売台数（SAAR）も前月比10.4%減の140万台と両セグメント共に大幅減となった（図表6）。貨物車（普通+小型トラック）販売台数の1月のSAARも前月比6.7%減の44.5万台と減少した。一部メーカーが昨年12月に決算期末の押し込み販売を行ったことにより、その反動減が1月の販売に現れたと推測する（図表7）。

鉱工業指数をみると、12月の生産は4か月連続で上昇した。在庫も減少し続けている。内外需ともに堅調であることを背景に、実需にあった適切な生産活動が行われており、良好な需給環境が続いていると言える。米国を中心に海外主要市場向けの輸出減速が国内生産への下押し圧力となるリスクは依然として残るが、今年度いっぱいには堅調な買い替え需要を背景とした国内販売の持ち直しを下支えに、生産は堅調に推移するものとみられる。

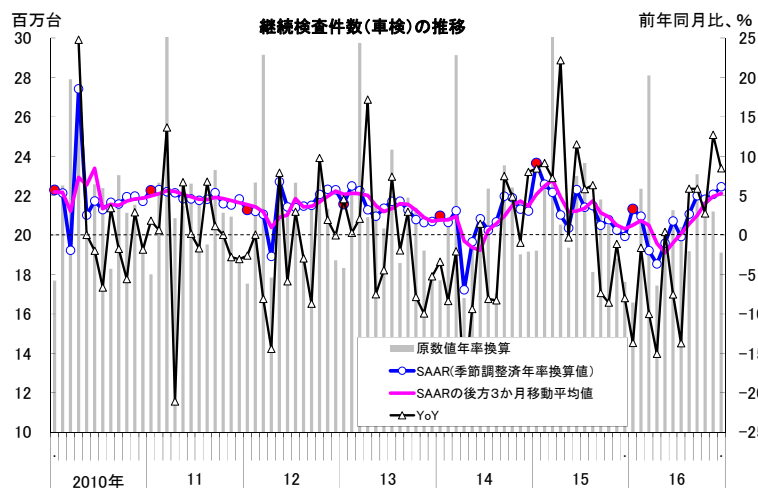
中古乗用車の16年輸出台数は前年比6.0%減の96万台と2年連続の減少となり、直近12月の輸出台数（SAAR）も前月比6.2%減の95万台と大きく減少した。輸出金額は前年比2桁%の減少が10か月も続いている。主要市場のひとつであるミャンマーにて、1月から右ハンドル中古車の輸入が原則禁止となったこともあり、中古車輸出市場は17年も苦しい年となろう。一方、在庫補充の動きがみられるというスリランカ向けの輸出台数は12月に急増した。17年の中古輸出市場の数少ない回復市場として、スリランカが再び「救世主」になるかに注目したい。

図表1 1月の国内新車販売（SAAR）は失速



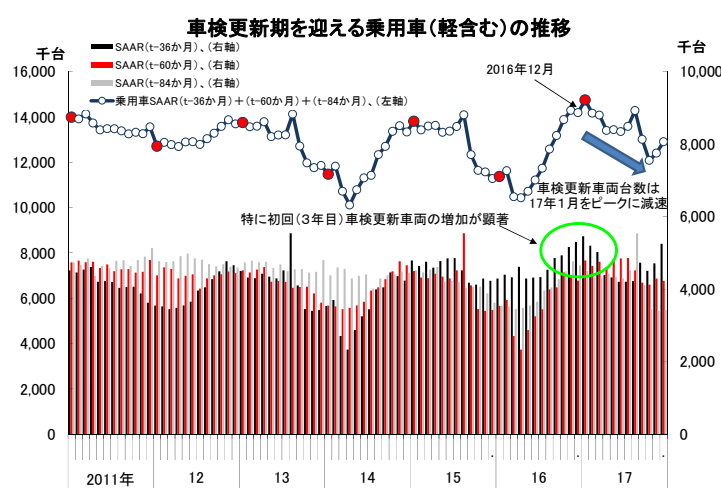
注1：赤塗リメーカーは各年の1月実績値。
注2：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会より作成

図表2 継続検査件数(車検)の増加基調が続く



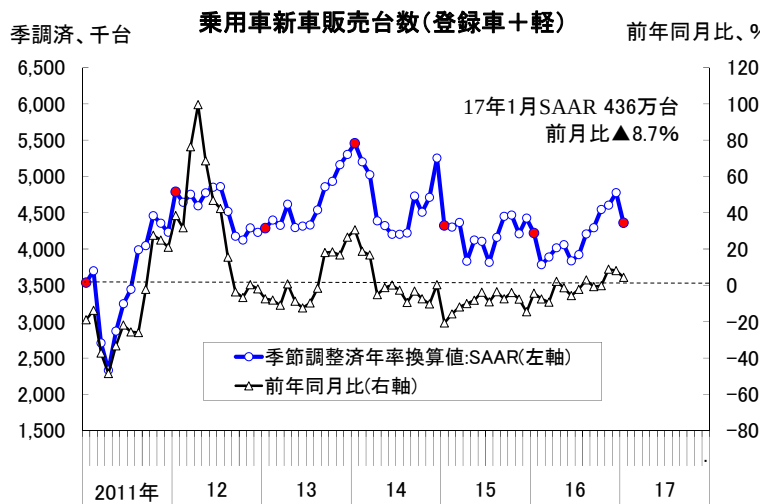
注1: 赤いマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARはX-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が算出。
出所: 国土交通省のデータを基に作成

図表3 車検更新車両の「理論値」は1月がピーク



注1: 赤いマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARはX-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が算出。
出所: 日本自動車販売協会連合会のデータを基に作成

図表4 乗用車販売(SAAR)は7か月ぶりの大幅減



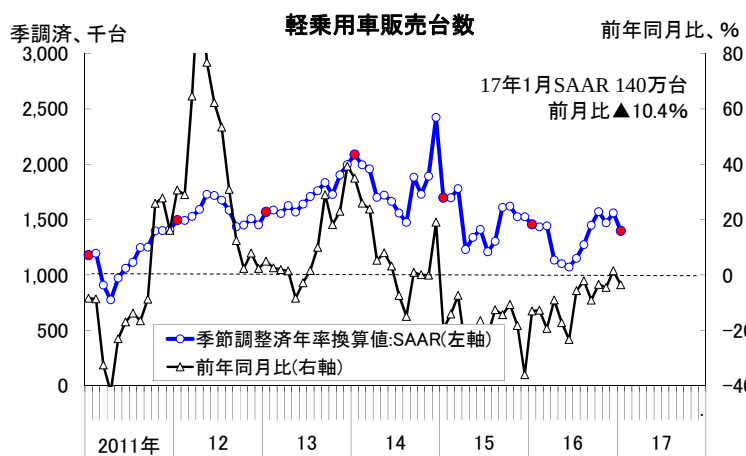
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会及び全国軽自動車協会連合会より作成

図表5 登録乗用車販売が減少



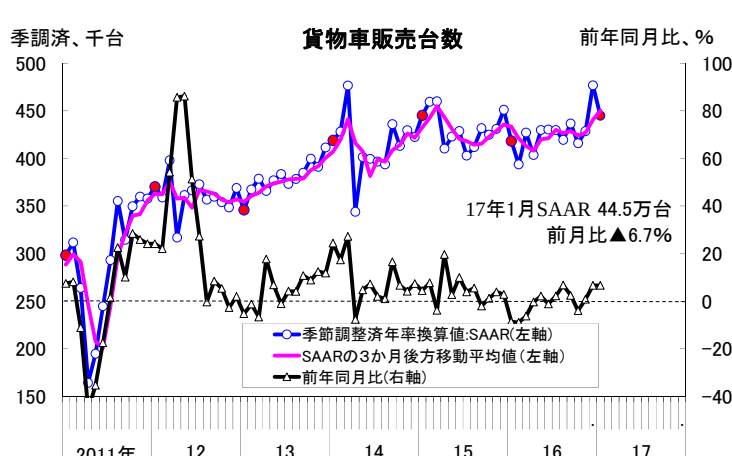
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

図表6 軽乗用車販売も減少



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 全国軽自動車協会連合会より作成

図表7 貨物車販売も大幅な減少



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

2. 在庫を減らしながらの増産が続き、乗用車の良好な需給環境が続く

鉱工業指数（速報値）を見ると、12月の乗用車生産は4か月連続の上昇となった。出荷が前月並みとなったが、在庫水準は3か月連続で低下している。実需に合った適切な生産活動が行われていると言え、良好な需給環境が続いている。在庫循環図上では^(注)、11月に続き12月も乗用車生産は「意図せざる在庫減局面」にあり、在庫は健全な水準を維持している（図表8）。堅調な内需と輸出が増産を下支えしている。米国を中心とした海外での自動車需要の減速懸念が払しょくできないことから、乗用車生産に対する下方圧力が高まるリスクは依然として残るが、在庫水準が健全である中、買い替え需要の盛り上がり为背景とした国内販売の持ち直しが続くため、目先、生産は堅調に推移すると考える。

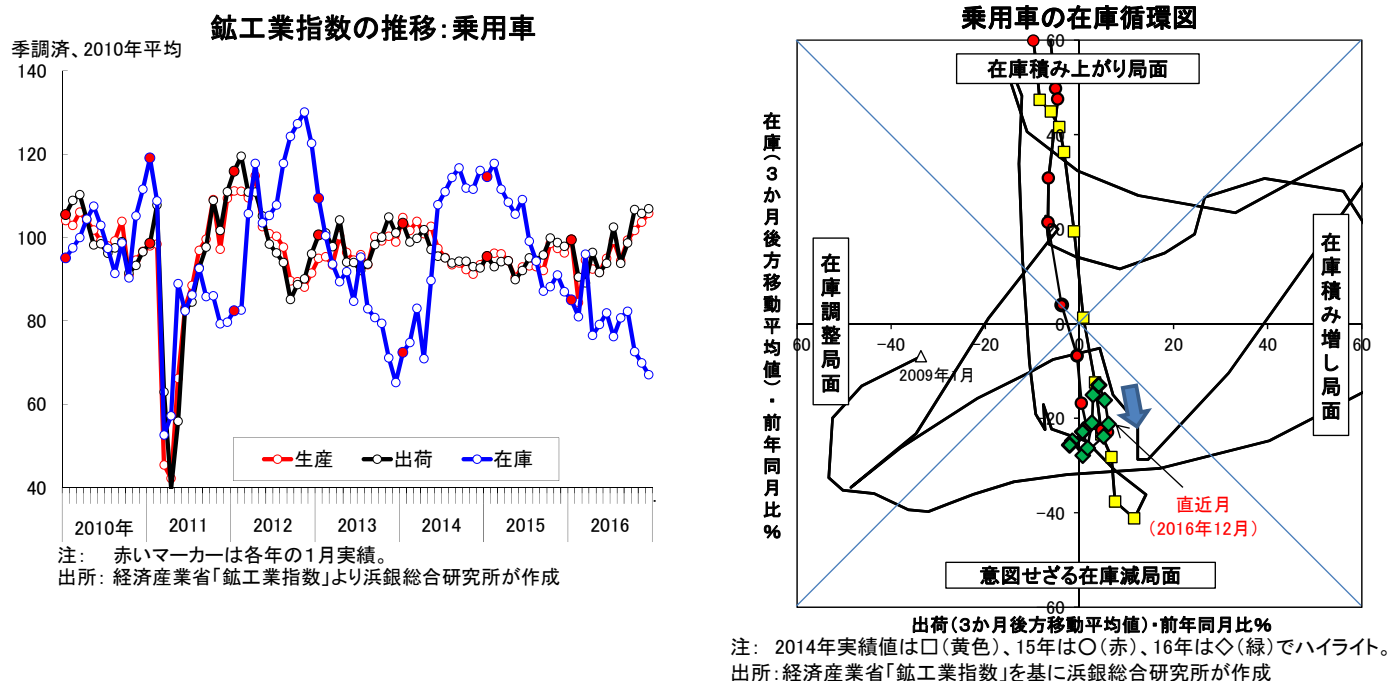
図表9～11では鉱工業指数から、普通、小型、軽乗用車別の各指数（生産、出荷、在庫）の推移と在庫循環図を示している。12月の普通乗用車の在庫（季調値）は減少したが、生産活動は「在庫積み増し局面」にあり、トレンドとしては、メーカーが需要増加に備え在庫を積極的に積み増す状況が続いている。

12月の小型乗用車の在庫は増加したが、生産活動は「意図せざる在庫減局面」から「在庫積み増し局面」に移行した。国内外の需要減少リスクには引き続き要警戒だが、小型乗用車の在庫水準は健全化しており、前向きな在庫積み増しのために今後は生産が上向く可能性が高い。

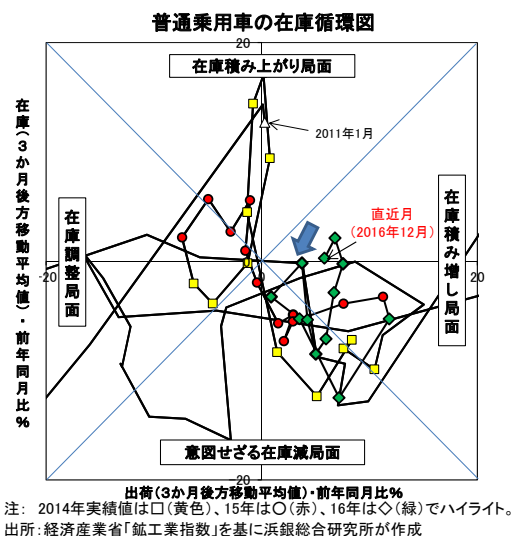
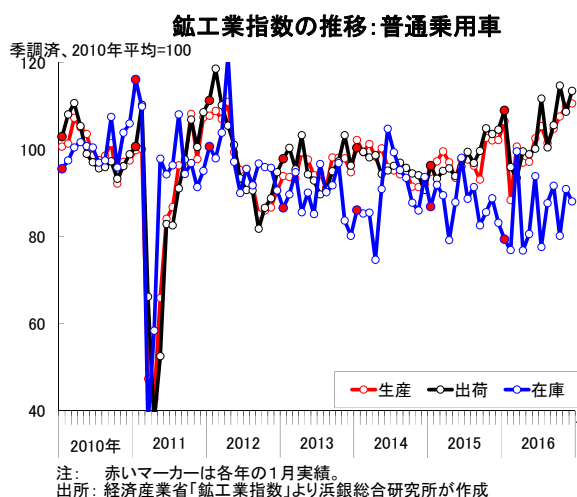
軽乗用車の在庫は若干増加したが、生産は「意図せざる在庫減局面」に止まっており、在庫水準は適正である。

（注）新モデルが発売されるタイミングで乗用車の出荷と在庫は大きく振れるため、各月の出荷・在庫（原数値）を3か月後方移動平均で均してから前年同月比と比較し、それぞれ変化率をX軸（出荷）とY軸（在庫）でプロットしている。

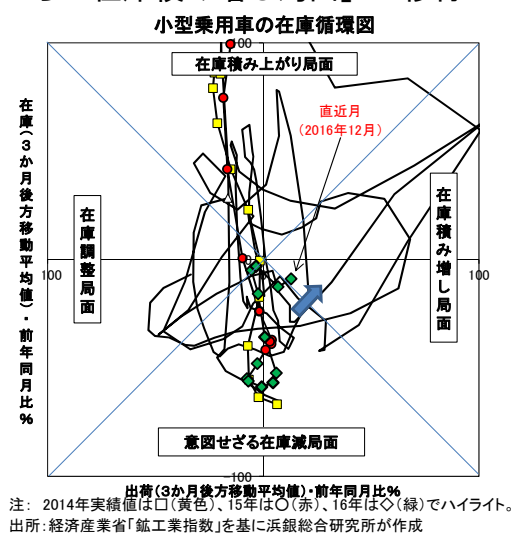
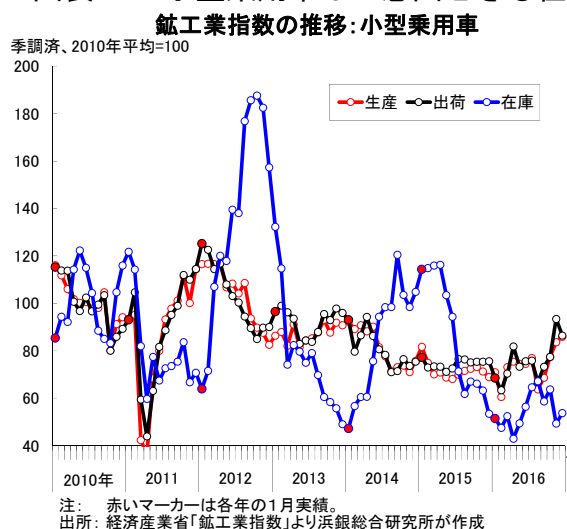
図表8 乗用車の良好な需給環境が続く



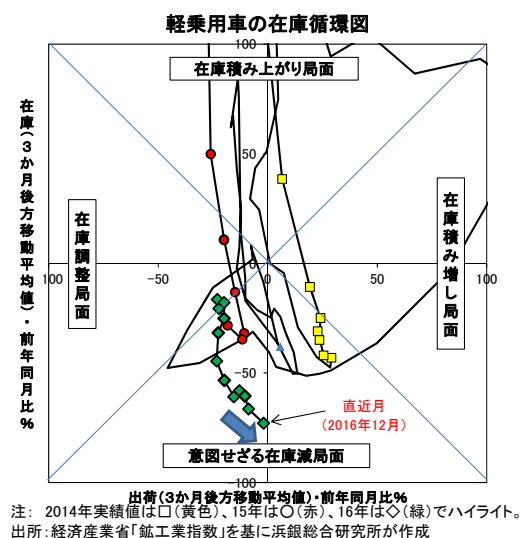
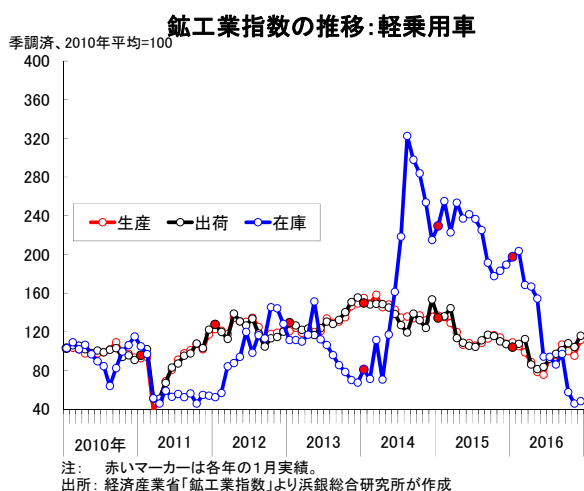
図表9 普通乗用車の生産は「在庫積み増し局面」が続く



図表10 小型乗用車は「意図せざる在庫減局面」から「在庫積み増し局面」へ移行



図表11 軽乗用車は「意図せざる在庫減局面」が続き、在庫水準は健全



3. 12月新車乗用車輸出（季調値）は2か月連続の減少で頭打ち感あり

1月30日に公表された12月の乗用車輸出台数（軽乗用車と中古車を除く）は前年同月比2.5%増と19か月連続で前年超えとなったが、SAARは前月比1.6%減の422万台と2か月連続で減少した（図表12）。3か月後方移動平均値でみたトレンドは緩やかな持ち直しが続いているが、下方圧力が強まってきた。主要仕向地別でみると（図表13）、需要回復の兆しが見えてきたASEAN向け以外の主要地域向け輸出が押し並べて減少した。

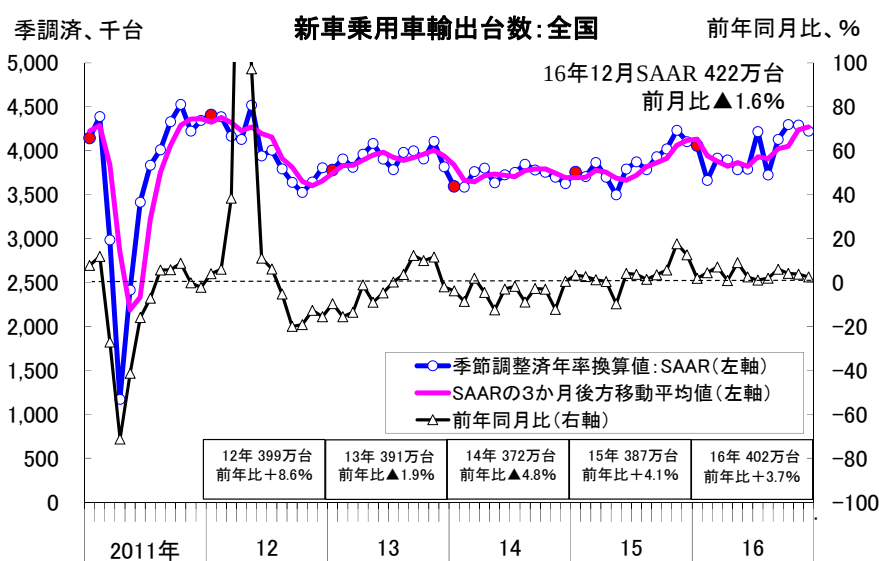
日本にとって最大の輸出先である米国の新車販売台数（SAAR）は、12月に前月比1.7%減の1,785万台（当社試算）と4か月ぶりに減少した（図表14）。3か月後方移動平均値でみたトレンドをみると、需要は伸び続けているが、メーカー各社による販売奨励金が高水準で推移していることから、脆弱性の高い需要の拡大が続いていると言えよう。長らく拡大基調にあった米国新車市場は、2017年に「息切れ」する可能性が高く、引き続き、同国向けの輸出が今後一段と切り上がって、輸出の大きな押し上げ要因になると期待するのは難しい状況と考える。

米国に次ぐ主要仕向け地である欧州では、12月の販売台数（SAAR）が前月比7.3%増と伸長し、3か月後方移動平均値でみたトレンドも反転増加した（図表15）。16年の欧州の新車販売は堅調であったが、主要市場である英国の新車販売においては、同国EU（欧州連合）離脱に伴う通貨安を起因とした自動車価格の値上げが逆風となるため、同地域向けの輸出も今後更に上向いていくと予想するのは難しい。

最後に、中国の12月の乗用車小売台数は8か月連続で前年同月比2桁%増と堅調で、流通在庫は適正水準にある（図表16）。ただ、乗用車販売台数（生産に近い工場出荷ベース）に目を向けると、12月のSAARは前月比4.0%減となり、3か月後方移動平均値で見るトレンドも減少に転じた（図表17）。16年を通して中国の内需は小型車減税を背景に堅調に推移したが、年末になり息切れ感が出ている。昨年末に終了予定の同減税措置が1年間延長されることが決まったが、延長決定前に駆け込み需要が発生したことや、減税幅が半分にされることから、駆け込み需要の反動減及び実質増税が逆風となり、17年は内需が減少するリスクがある。従って、中国向けの輸出に関しても楽観できる状況ではない。

上記のように、米国および欧州の新車市場の減速及び中国での内需減少懸念から、今後、日本からの自動車輸出に対し下方圧力が高まる可能性がある点には引き続き要警戒である。

図表12 12月乗用車輸出（SAAR）は2か月連続の減少



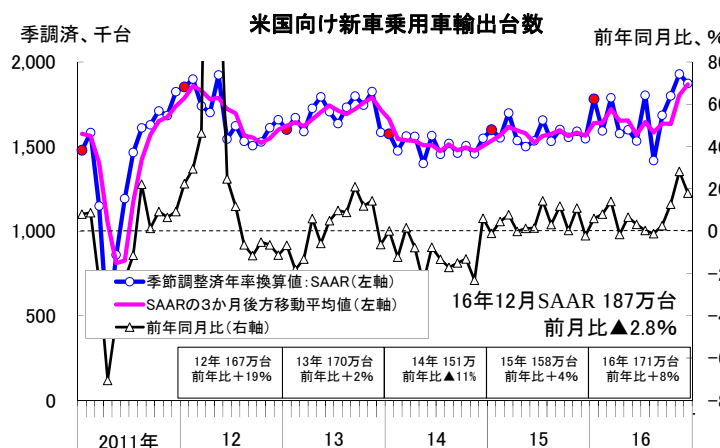
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2：ノックダウンを除く。

注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所：財務省「貿易統計」より作成

図表 13 ASEAN 以外の主要地域への輸出が減少

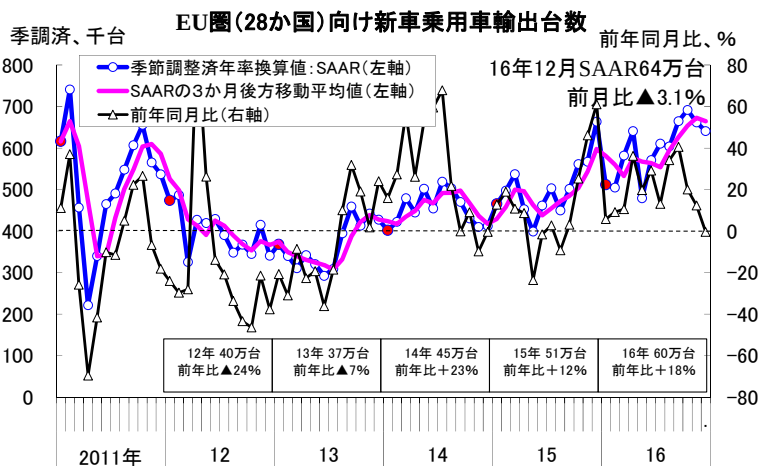


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: ノックダウンを除く。

注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

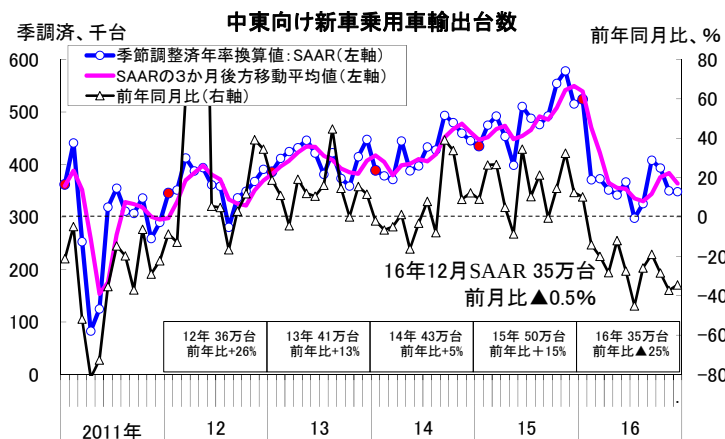


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: ノックダウンを除く。

注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

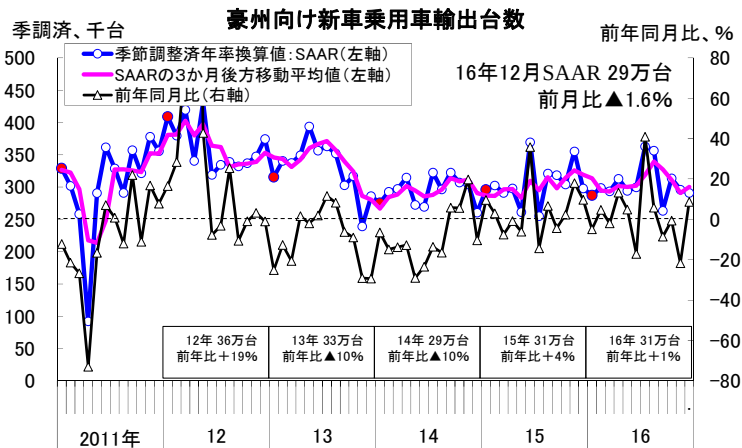


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: ノックダウンを除く。

注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

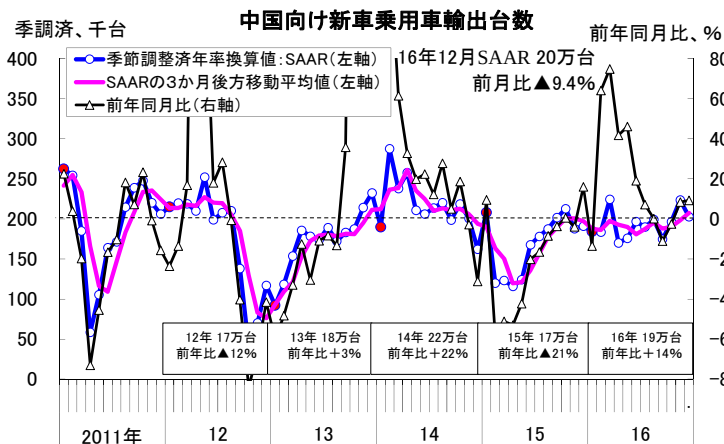


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: ノックダウンを除く。

注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

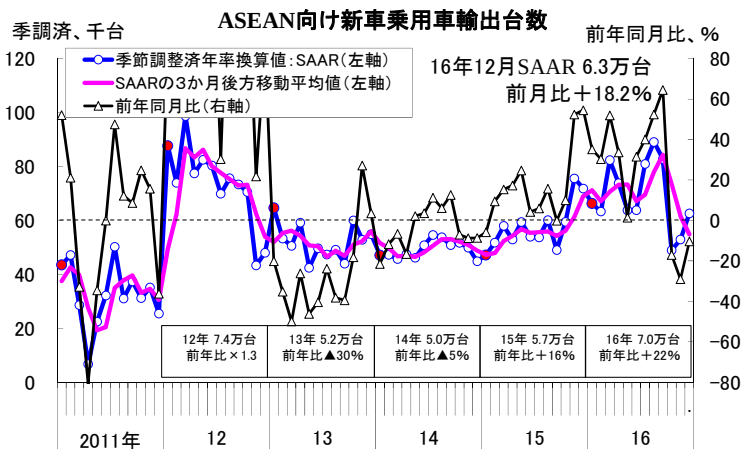


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: ノックダウンを除く。

注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成



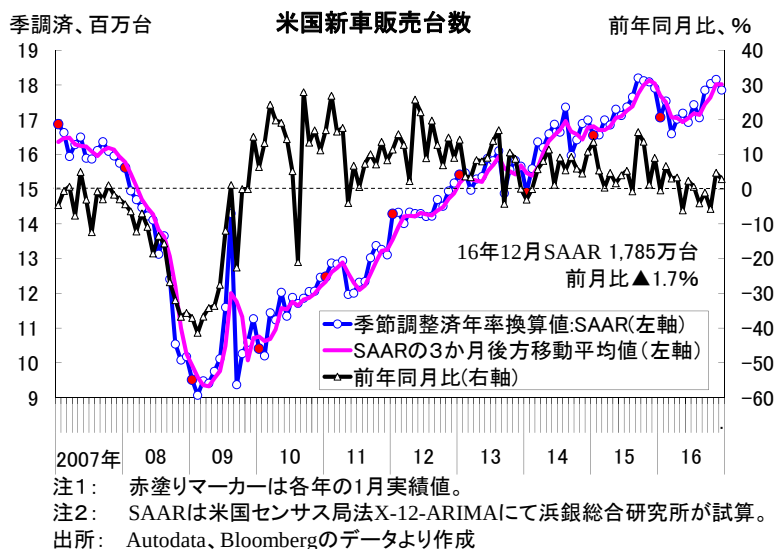
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: ノックダウンを除く。

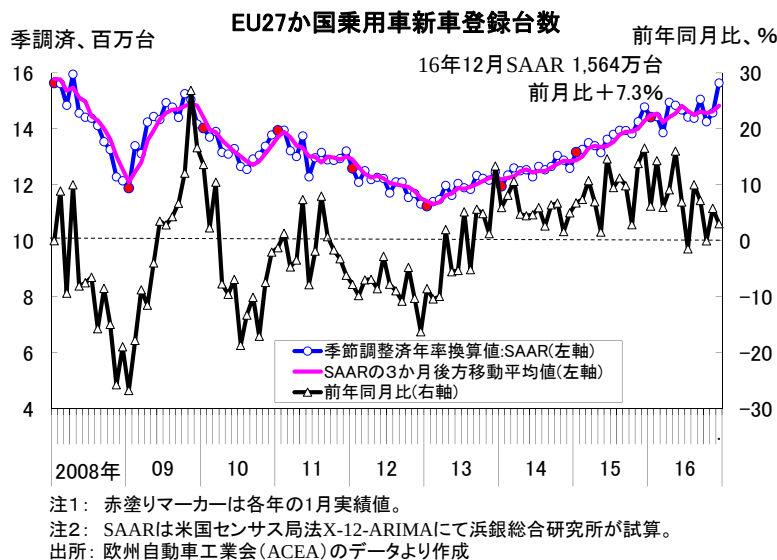
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

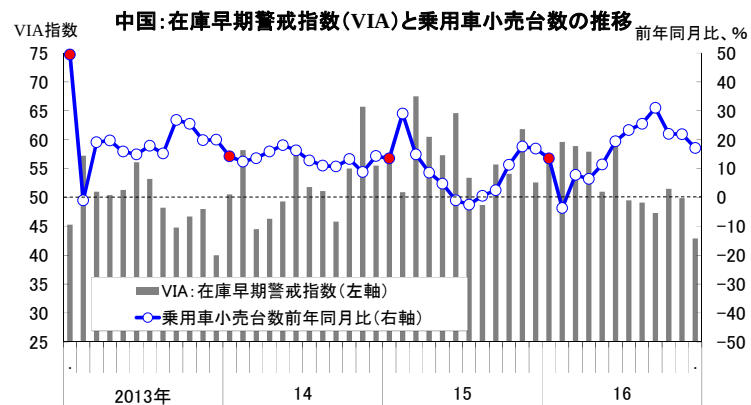
図表 14 米国新車販売は4か月ぶりに減少



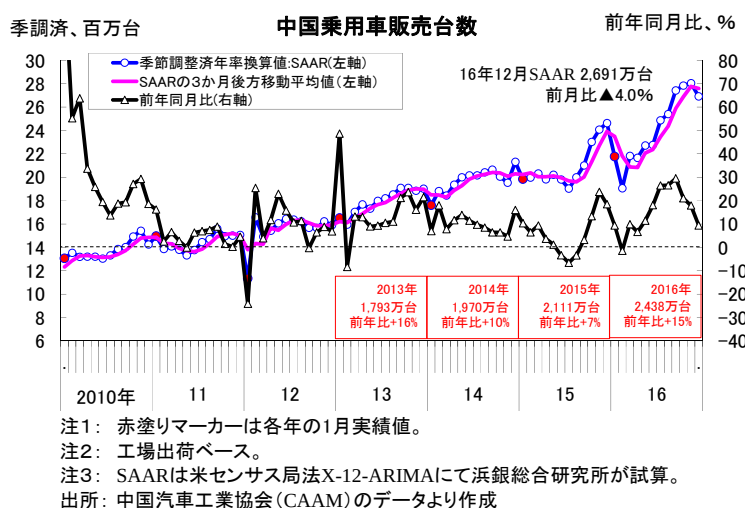
図表 15 12月の欧州販売は伸長



図表 16 中国乗用車小売販売は堅調：在庫水準は適正



図表 17 中国乗用車販売は減速



4. 16 年中古乗用車輸出台数は前年比 6.0%減の 96 万台と 2 年連続の減少。スリランカ向けは回復の兆し

国内流通業者に注目されている中古乗用車の輸出市場に目を向けると、12 月の中古車輸出台数は前年同月比 11.0%増と 9 か月ぶりに前年超えとなった 11 月に続き 2 か月連続のプラスとなったが、SAAR は前月比 6.2%減の 95 万台と 100 万台を再び割り込んだ。3 か月後方移動平均値でみるトレンドは 9 月を底に上向いてきており、長らく底の見えない状況が続いていた中古車輸出台数に回復の兆しが出始めている（図表 18）。もっとも、本年 1 月よりミャンマー政府が右ハンドル車の輸入を原則禁じていることもあって、中古車輸出市場の今後を楽観するのは禁物である。12 月の中古乗用車の輸出金額は前年同月比 8.2%減と 10 か月連続の減少となり、中古車輸出市場を取り巻く環境は引き続き厳しい状況が続いている（図表 19）。

12 月の中古乗用車輸出台数を仕向地別で見ると、ニュージーランド向けやシンガポール、バングラデシュ向けの輸出が減少した（図表 20）。輸出価格に目を向けると、全世界向け中古乗用車の FOB 平均価格の低迷が続いている。12 月の平均価格は前月比で若干上昇したが、これは高単価市場であるスリランカ向け輸出が盛り返したことが背景にあると考える（後述）。一方、台数ベースで最大の仕向け先であるアフリカ地域向け中古乗用車の FOB 平均価格は 12 月に大きく値崩れしており（11 月 39 万円→12 月 33 万円）、収益性を犠牲にした激しい価格競争が収まる様子は統計からは見受けられない（図表 21）。

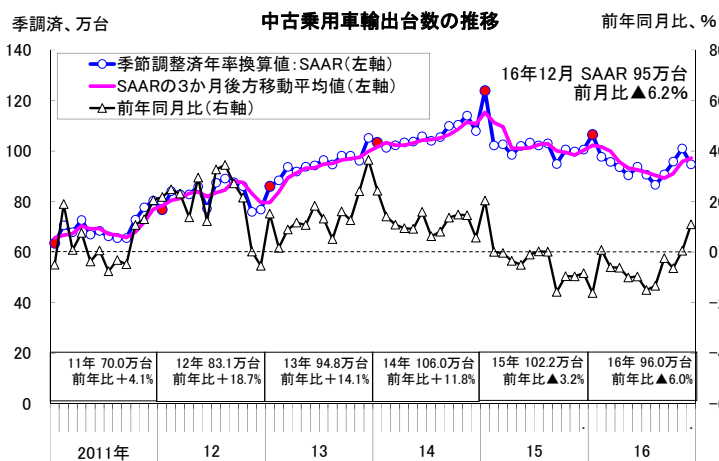
中古車流通業者の間で高成長市場として注目されてきたスリランカ向けの 12 月の輸出台数（SAAR）は前月比 78.5%増の 3.2 万台と急伸した（図表 22）。とりわけ、同国固有で人気が高い軽乗用車の日本からの輸出台数は 12 月に大幅に増加し（同月実績 1196 台）、久方ぶりに 1000 台を超える台数が同国向けに輸出された（図表 23）。ちなみに、同じ図表 23 でもうひとつ注目すべき点は、スリランカ向け以外で中古軽乗用車の輸出が急増していることである。本レポートでは詳細を割愛するが、貿易統計を見ると 12 月のパキスタン向け中古軽乗用車輸出台数が 3402 台と過去最高を記録した。スリランカと併せてパキスタン向け中古軽市場の動向には今後も要注意である。なお、中古軽乗用車の 12 月輸出単価はスリランカ向けが 89 万円に対し、パキスタン向けは 44 万円であることから、パキスタン向けは低年式軽乗用車が輸出されていると推測される。

スリランカ向け中古車輸出に話を戻すが、昨年終盤から、登録車も含め、同国向け中古車輸出に持ち直しの動きがあるという業者からの声が聞かれており、長らく輸入を抑えてきたスリランカ側で在庫補充の動きが出始めていることが背景にあることが考えられる。

ミャンマー市場の消滅により、中古車輸出市場は 2017 年も苦しい年を迎える可能性が高いが、台数規模は大きくないものの、高単価・高収益市場であるスリランカ向け中古車輸出の回復は、業界関係者にとって数少ない拠り所となろう。今年の中古車輸出市場の回復の鍵はスリランカが握っている。本年は、大手軽自動車メーカーによる基幹モデルのフルモデルチェンジが行われるが、スリランカ業者からの同モデルへの関心は極めて強い。軽乗用車の高年式中古車（特に型式 DAA-のハイブリッド車）の輸出が盛り上がるかどうかには要注目である。

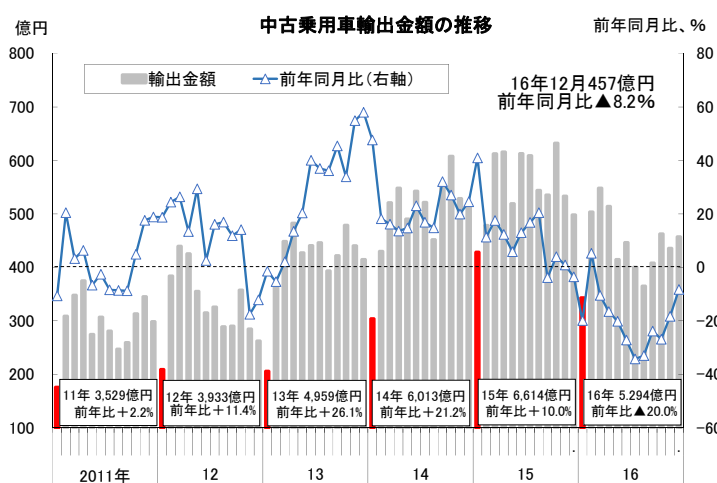
最後に、スリランカと同様に高単価車両の輸出先であるシンガポール向けの 12 月の輸出台数（SAAR）は、前月比 32.7%減の 0.9 万台と 6 か月連続の減少で底が見えない状況が続いている（図表 24）。同国では自動車所有権証（COE: Certificate of Entitlement）の発行数が増加しており、自動車の買い替え需要が盛り上がっていたが、マクロ景気の悪化が足かせとなり、減少トレンドが続いている。

図表 18 中古乗用車輸出台数（SAAR）は12月に減少



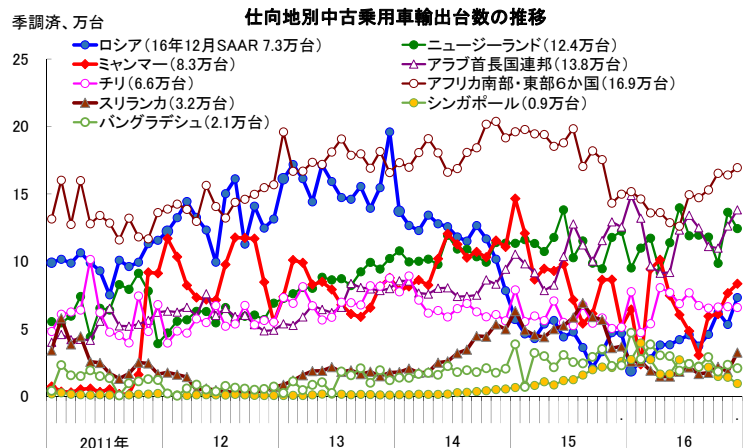
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 財務省「貿易統計」より作成

図表 19 輸出金額は10か月連続の前年割れ



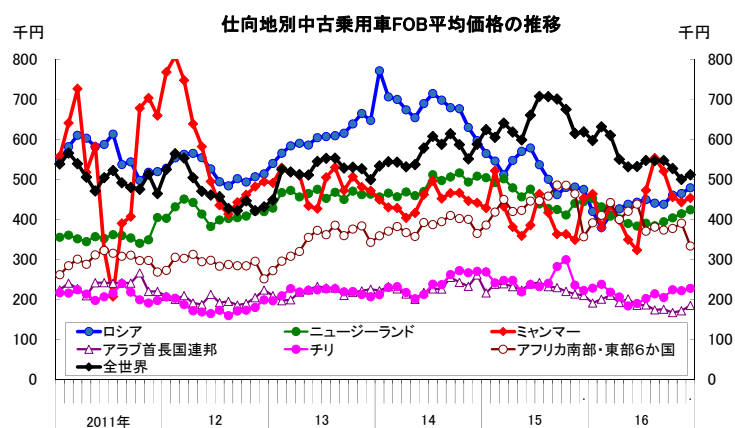
注: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 出所: 財務省「貿易統計」より浜銀総合研究所が作成

図表 20 NZ 向け輸出が減少



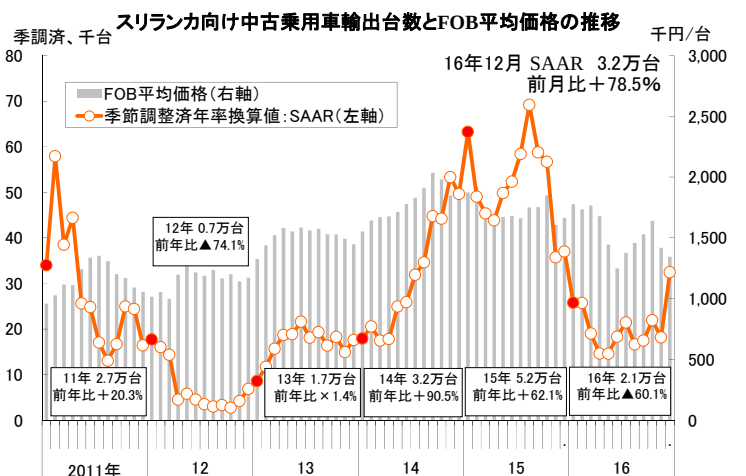
注1: アフリカ南部3か国: 南アフリカ、モザンビーク、ザンビア、東部3か国: ケニア、タンザニア、ウガンダ。
 注2: SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 財務省「貿易統計」より作成

図表 21 中古輸出乗用車の市況低迷続く



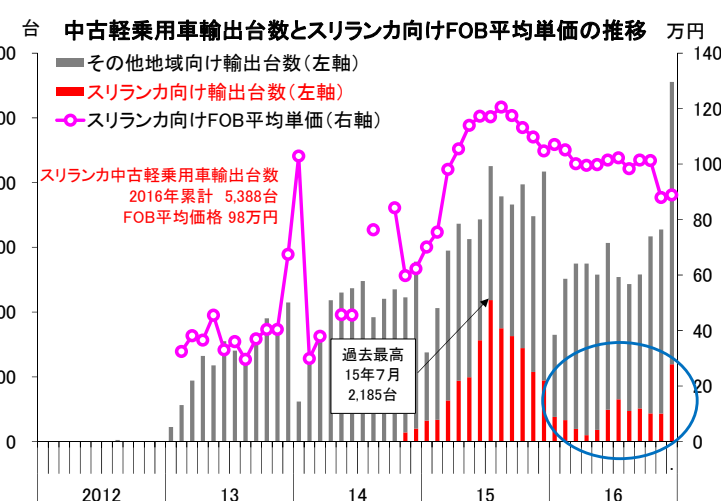
注1: アフリカ南部3か国: 南アフリカ、モザンビーク、ザンビア、東部3か国: ケニア、タンザニア、ウガンダ。
 注2: FOB平均価格は輸出金額を輸出数量で除した。
 出所: 財務省「貿易統計」より浜銀総合研究所が作成

図表 22 スリランカ向けは大幅に増加



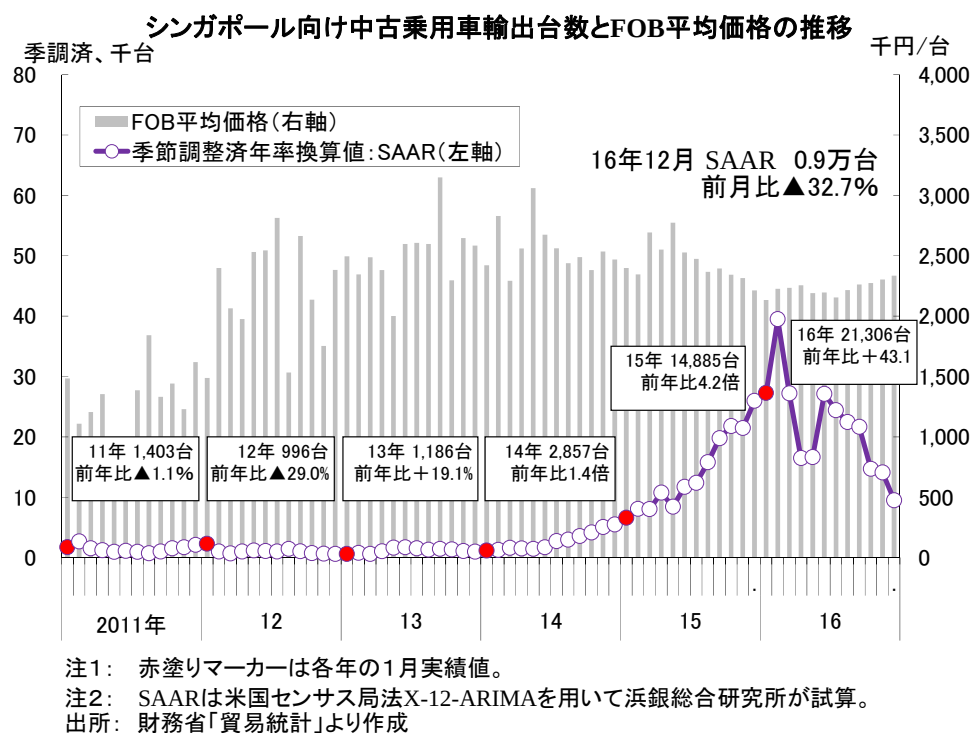
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 財務省「貿易統計」より作成

図表 23 スリランカ向け中古軽乗用車輸出が大幅増



注1: スリランカ向けFOB平均単価が計算できない月は輸出台数が0台であった。
 出所: 財務省「貿易統計」を基に浜銀総合研究所が作成

図表 24 シンガポール向け輸出（SAAR）は6か月連続の減少で底が見えない



本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。